



炎症性腸疾患（IBD）外来のご案内



【担当医】

内科

井上 拓也（大阪医科大学非常勤講師）

井上 拓也 先生

炎症性腸疾患（IBD）外来のご案内

炎症性腸疾患（IBD）とは

主に消化管（腸）に慢性的な炎症を起こす疾患で、潰瘍性大腸炎やクローン病に代表されており、増加している疾患です。原因は未だ不明で病状が慢性化しやすい為、気長にコントロールを行う必要があります。

代表的な症状としては、粘血便や血便が常に行ったり繰り返すことが多く、また下痢、腹痛、発熱、体重減少、嘔気、嘔吐、貧血などを伴います。発症年齢は15歳～35歳が多いですが、最近では小児や50歳以上の方も発症することがあります。

治療方法は潰瘍性大腸炎やクローン病の場合、病気の範囲や炎症の度合い、重症度に応じて様々な治療法があるので、状況に応じた適切な治療が良好なコントロールを得るうえで重要となります。



炎症性腸疾患（IBD）外来のご案内

炎症性疾患の判定方法としては、まず問診で疾患の可能性があるかを判断します。次にS状結腸や大腸を内視鏡検査にて、特有の粘膜病変がないかを確認します。また、場合によっては生検や培養を行うこともあります。

炎症性腸疾患の良好なコントロールを得るのは難しい為、治療経験が多い専門医に診てもらう事をお勧めします。

当院では専門外来を開設しておりますので、症状でお悩みの方は、ご相談にお越し下さい。

炎症性腸疾患（IBD）外来のご案内

医療法人 晴心会 野上病院



炎症性腸疾患外来
井上 拓也 医師

炎症性腸疾患（IBD）とは、主に消化管（腸）に慢性的な炎症を起す疾患で、潰瘍性大腸炎やクローン病に代表されており、増加している疾患です。原因は未だ不明で病状が慢性化しやすい為、気長にコントロールを行う必要があります。

代表的な症状として、粘血便や血便が常にと繰り返すことが多く、また下痢、腹痛、発熱、体重減少、嘔気、嘔吐、貧血などを伴います。発症年齢は15歳〜35歳が多いですが、最近では小児や50歳以上の方も発症することがあります。

治療方法は潰瘍性大腸炎やクローン病の場合、病気の範囲や炎症の度合い、重症度に応じて様々な治療法があるので、状況に応じた適切な治療が良好なコントロールを得るうえで重要となります。

炎症性疾患の判定方法としては、まず問診で疾患の可能性があるかを判断します。次にS状結腸や大腸を内視鏡検査にて、特有の粘膜病変がないかを確認します。また、場合によっては生検や培養を行うこともあります。

炎症性腸疾患の良好なコントロールを得るには難しい為、治療経験が多い専門医に診てもらう事をお勧めします。当院では月2回専門外来を開設しておりますので、症状でお悩みの方は、ご相談にお越し下さい。

「炎症性腸疾患外来」第2
4木曜日 13時〜16時
野上病院 泉南市樽井1-2-5 Tel.072-484-0007（代）